

## ま え が き

新型コロナウイルスの感染拡大や流動的な世界情勢とも相まって、先行きが不透明で将来の予測が困難な状況が急速に進展しました。このような時代を生き抜いていくため、児童生徒には、解決が困難な課題に対して自分事として主体的に関わり、様々な角度から物事を考える力、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働して解決する力等が求められます。これらの資質・能力を育成するべく、教員には、これまで以上に、自己の崇高な使命を深く自覚するとともに、絶えず研究と修養に励む必要があります。

本県における研修員制度は、昭和50年度に始まり、昨年度までに修了した研修員は延べ586名に上ります。本研修での学びを経験した各教員は、各学校・各地方の中核的な存在として活躍し、本県教育の充実・発展に大きく寄与しています。

本年度の研修員研修においても、本県が策定した「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた修養を土台とし、今日的教育課題の解決を図るべく研究を行い、その成果を広く学校現場に還元することを目的として実施しました。

研修員によるこの1年間にわたる研究と修養の成果の一端を「令和4年度研修員研究集録（第48集）」として作成しました。研究成果については、本年1月28日に開催した令和4年度和歌山県教育センター学びの丘研究報告会において報告したところで。各学校・各地方においては、本研究集録とともに、当センターのウェブページに掲載している資料も併せて、これからの教育実践の参考として活用いただければ幸甚です。

最後になりましたが、本年度研修員の研修に際して、御支援・御協力をいただきました学校並びに関係教育機関の方々に、心からお礼を申し上げます。

令和5年3月

和歌山県教育センター学びの丘  
所 長 森 田 浩 二